

第16回 核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究ワーキンググループ 議事録（要録版）

日時 2014年5月8日（金） 10時00分～14時00分

場所 大手町ビル7階 電中研第1会議室

出席者（敬称略，順不同） *午前中のみ

主査：池田泰久（東工大）

副主査：村松 健（東京都市大）

幹事：阿部 仁*（JAEA），深澤哲生（日立 GE）（記）

委員：井上 正（電中研），澤田佳代（名大），塚田毅志（電中研），中島 健*（京大），平野光將（電中研），眞部文聡（MHI），森岡信男（MMC），吉田一雄（JAEA）

オブザーバ：藤田玲子*（東芝），松岡伸吾（JNFL）

配付資料

- 議事次第，核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究 WG メンバー出欠
- 核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究ワーキンググループ報告書「再処理施設におけるシビアアクシデントの選定方法と課題」（仮題）ドラフト作成作業ファイル V10
- 表 1.2 ワーキンググループの開催経緯
- 1章、2章、5章の概要とポイント
- 「4. 具体例への適用」まとめ
- 4.4 臨界事故の例
- SAWG の今後の進め方について（案）
- 今後の活動について（討議用たたき台）

議事概要

1. 主査挨拶。本日は報告書最終ドラフトについて審議いただく。
2. 報告書ドラフト全般について
 - 本報告書は誰に向けての発信なのか明確にする必要がある。学会を中心とした原子力関係者（規制、事業者を含む）への提言と考えるべき。
 - 原子力関係者であっても、専門用語は分かりにくい。記号・略語一覧を作成する。
 - 学会の収入源とするため、CD または冊子を販売することも検討する。
3. 報告書ドラフト「1. はじめに」について
 - 「基本的用語の定義」等をここに入れるか、最後にするか、検討する。
4. 報告書ドラフト「2. 選定方法」について
 - PRA に重きを置きすぎている。本章の構成を再検討する。

- 図 2.1 右下の「～検討を要しない～」は言い過ぎ。別の表現方法を検討する。
- 2.5(3)の影響評価を 2.4 節と 2.5 節で重複して行っていると誤解されるので、工夫する。
- 本節最後の「オーダー程度の精度」は、PRA の信頼性が低いという印象を与えるので、書き方を工夫する。

5. 報告書ドラフト「3. 判断基準の検討」について

- 記号・略語数削減の観点より、Nh、Ni 等及びその関連部分は削除する。
- 3.4(4)は、参考情報ではないので、3.4 直下に入れる等、配置を検討する。
- 図 3.3 の「検討を要しない～」は、別の表現方法を検討する。
- 図 3.4 の図中の線と図下の説明との対応を明確にする。
- 表 3.5（正しくは表 3.6）の指標・目安の数値や不等号を再度確認する。

6. 報告書ドラフト「4. 具体例への適用」について

- 4.3(2)及び 4.4(2)の 4) 影響の評価には、課題も記載されており、両者を区別した方がより分かりやすくなる。
- 過去の事例（文献）の記載について検討する。

7. 報告書ドラフト「5. 課題検討」について

- 防災についても記載することを検討しては。
- 5.1(4)の「規制機関」は、対象を特定しない方が良いのでは。
- 5.1(5)の「地震時人間信頼性～」は「地震後人間性信頼性～」の方が良いのでは。
- 5.2 の 1 行目「海外で大きな議論の対象とされなかったが、」は削除する。

8. 今後の進め方について

- 「SAWG の今後の進め方について（案）」に示された報告書とりまとめ・公開手順は概ね了解された。コメントは今週中に全員返信する。
- 秋の大会での企画セッションについても対応する。

9. 今後の活動について

- 若手育成にも配慮して再処理・リサイクル部会の活動として、安全及び核燃料サイクルの両分野を含めた核燃料サイクルにおけるシビアアクシデント対策のあり方及び評価手法に関する勉強会を行う。
- 今回の報告書のブラッシュアップについても検討する。

10. 次回日程：未定

以上